

第1期（2016年度）事業報告

1. 法人設立

2016年度の活動

日程	活動内容
5月	法人設立
	宮前町お祭り
毎月	清水沢まちあるき
6月～10月	清水沢アートパワープラント
6月	メロンまつり出展（JCブース支援）
	ゆうばり観光ガイド養成講座 研修事業
7月	「清水沢エコミュージアムプロジェクトに係る連携協定」締結
	「清水沢エコミュージアムプロジェクト運営調査委託業務」受託
	シニアフォトキャラバン滞在
7月24日	ズリ山整備
8月	松本力滞在
8月12日～15日	シニアフォトキャラバン写真展
10月	菊池史子滞在
10月6日	清水沢コミュニティゲート開所式・お披露目会
	紅葉まつりPR出演
11月3日	菊池史子中間発表+さよならパーティー
12月17日～	清水沢駅の思い出展第二期-駅と、まちと、ひとと
12月4日・20日	宮前町クリスマスイルミネーション設営
1月13日・14日	宮前町新年行事
2月11日～19日	清水沢駅120歳お誕生会
3月5日	ゆうばり映画祭菊池史子作品上映
3月11日～20日	第1回宮文祭

一般社団法人清水沢プロジェクト（以下、当法人）は、2016年5月13日にて法人登記を行い、設立しました。

当法人の活動は、2008年、清水沢地区の炭鉱遺産を活用した地域再生方策に関する調査研究に端を発します。当時、2009年度を初年度とし、10年計画で「清水沢エコミュージアム計画」を立案しました。以来、清水沢地区に点在する炭鉱の記憶を、石炭博物館と相互に補いあう野外博物館（エコミュージアム）として地域内外に提示し、それを入り口（ゲート）に地域にやってきた人々が地域の人々と出会い、関わりを深めることで、それらの人々が「ともに歩む地域」を作っていくことを念頭に置き、活動を続けてきました。2015年度は「既存公共ストック活用による多世代交流促進事業」により、宮前町内会と協働で宮前集会所の多機能交流拠点化事業を行いました。

2016年3月、夕張市が策定した「夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略」に、「産業遺産ツーリズム拠点としての清水沢プロジェクト」と明記されました。2006年に表面化した財政破綻以降観光事業を行ってこなかった夕張市が、清水沢プロジェクトの活動を「再出発」の施策の一つとして取り入れた形となりました。これらの活動を事業として本格的に行うため、これまで任意団体であったものを法人化することとしました。

法人の主たる事務所は夕張市清水沢2丁目161番地2に設置しました。設立時社員は佐藤真奈美と上木和正氏の2名で、理事会は非設置とし、佐藤が理事ならびに代表理事に就任しました。

2. 清水沢エコミュージアムプロジェクト運営調査委託業務

2016年7月1日、夕張市と「清水沢エコミュージアムプロジェクトに係る連携協定」を締結しました。これは総合戦略で位置づけられている「産業遺産ツーリズム拠点としての清水沢プロジェクト」を推進するため、夕張市と当法人で連携・協力し、産業遺産や夕張のストーリーを伝え、夕張での暮らしやコミュニティーを実体験することにより、継続的かつ多様な交流人口を創出することを目的として事業を行うものです。「清水沢エコミュージアムプロジェクト」は、当法人の活動の延長線上であり、定款第4条の目的達成に資するものであるといえます。

本プロジェクトを継続的に実施運営するため、「清水沢エコミュージアムプロジェクト運営調査委託業務」を単年度、7,375,898円で受託し、実施しました。

活動拠点として、清水沢宮前町の旧炭鉱住宅「宮コ23」棟を夕張市から無償で貸与を受け、当法人ではこれを「清水沢コミュニティゲート」と名付けました。地域住民の静かな生活を守りつつ、地域内外の人々が出会うきっかけを生むことで夕張ファンを創出し、幅広い交流人口の獲得に繋がるための「入り口」としての役割を果たします。

本事業により、代表理事に報酬（140,000円）を、またアルバイトとして事務局長1人を雇用し給与（70,000円）を支払いました。また外での活動が多いため、車両の借り上げを行い、対応しました。

清水沢エコミュージアムプロジェクトは、炭鉱時代から続く住宅群での暮らしやコミュニティーを含めた「有形無形の炭鉱遺産」や「夕張のストーリー」を、ガイドやルート作成等によりわかりやすく提示する仕組みです。

この拠点として生まれたのが「清水沢コミュニティゲート」です。実際の炭鉱住宅であった施設に観光インフォメーションやクリエイティブ人材の中短期滞在拠点としての機能を持たせることで、夕張に関心を持つ人達がまず最初に訪れ、夕張の雰囲気を感じたり、学んだりする最初の「ゲート」とします。またこのゲートは、地域の静かな生活を守るための役割も担います。

3. 清水沢コミュニティゲートの運営

該当項目

- (1) 炭鉱遺産の保存・活用・普及啓蒙・学術教育・調査研究に関する事業
- (2) 地域資源の価値発見、活用による交流人口の増大に関する事業
- (3) 炭鉱遺産・地域資源の価値増大に資する施設等の運営事業
- (4) (1)～(3)各号に関する活動を目的とした来訪者の受け入れ、情報提供、支援に関する事業
- (5) 地域活動の活性化支援事業
- (6) 地域情報の受発信、物販に関する事業
- (7) 喫茶・飲食事業

清水沢コミュニティゲートは、夕張に関心を持つ人達がまず最初に訪れ、夕張の雰囲気を感じたり学んだりする最初の「ゲート」です。7月に仮オープンし、本格的な改修工事後の10月6日に開所式を行いました。

使用施設の「旧宮コ23棟」は、昭和47年に北海道炭礦汽船株式会社が社宅として建造し、のちに市営住宅となった1棟4戸の縦割りと呼ばれるタイプの住宅です。夕張市が保存することに決め、交流施設へと転換するために改装工事を行いました。コミュニティゲートでは、それぞれの部屋のドアを開けると違う表情が見えるように工夫して機能を持たせています。

主な用途

- 1号室 コミュニティスペース・ミニオフィス
- 2号室 夕張でなにかをやりたい人のための活動拠点
- 3号室 アート・文化活動向けの活動拠点
- 4号室 当法人の事務所・観光インフォメーション

改装の際は、当時よく使われたデザインや、入居者が残していった造作物、傷を残しました。供給当初は画一的な社宅がそれぞれの家族の歴史とともに変化していった証でといえます。

開館時間は、金・土・日・祝の10:30～15:30としました。それ以外に、2号室・3号室では、活動拠点が必要な滞在者の受け入れを行いました。この2室は、滞在者が身の回りのものを持ち込むだけで利用できるよう、冷蔵庫や洗濯機など生活に必要な備品を整備しています。消防の指導により、住宅用火災警報器や消火器の設置も行いました。電話・インターネットなどインフラやオフィス用品の整備は、事務用に使用するだけでなく、来訪者の活動をサポートする付加価値としての意味もあります。インターネットについては、全室で快適に利用できるように無線ネットワークを構成しました。また観光用や車を持たない滞在者の利便性向上の為、自転車を3台導入するなど利用者のニーズに柔軟に応じるための基本的な整備を行っています。

コミュニティゲート来訪者数（単位：人）

7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
45	56	59	170	51	37	35	31	215	699

7月～3月の清水沢コミュニティゲート来訪者総数は699名でした。（10月と3月には大きなイベントがあったため、来場者数が突出しています）

来訪者の目的は、打ち合わせ、見学、視察、取材、滞在利用者の訪問などが主で、ほとんどは事前連絡があるものでした。観光インフォメーションを目的に来る人は夏季期間はわずかにいたものの、冬季はほとんどみられません。周囲の景観と調和することを重視し、看板なども最小限にとどめたため、場所がわかりづらいということもさることながら、外部向けに浸透していなかったことが理由として大きいと考えられます。地域住民の方は、時折ふらりと訪れることもありますが、まだまだ稀です。

冬季の除雪は業者に依頼したので、不在がちでも常に整備されている状態を保つことができました。しかし近隣住民と共用する通路がないので、除雪が遅れても周囲に迷惑をかけることはありません。除雪費節減のため、来冬の体制は検討し直す必要があります。

水道管破裂防止の為にストーブを常に焚いていたので、温度センサーなどを利用してこまめにスイッチを切入していたものの、非常にコストが掛かりました。

費用がかかるハード面での整備は、委託事業の範囲内でおおむね完了することができましたが、古い建物ということもあり、今後も修繕費がかさんでいくことが考えられるため、積立しておく必要性を感じています。

観光案内・ガイド・アテンド業務

4号室は観光インフォメーションの機能をもたせました。石炭や炭鉱遺産、エコミュージアムについての案内パネルを作成・設置し、来訪者への案内に活用しました。炭鉱に関する書籍類、JRやバスの時刻も備え、観光施設の情報収集やパンフレットの設置も行いました。

今年度中、合計30回のガイド・アテンドを行いました。ガイドの要望に常時対応可能となるよう研修を行い、2人体制をとりました。このほかに、毎月1回「清水沢まちあるき」を第4土曜日に行っています。

月別ガイド実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数 (件)	2	0	0	4	7	3	8	3	2	0	0	1	30
収入 (円)	6,000	0	0	16,000	39,720	28,360	93,020	13,480	0	0	0	6,480	203,060

ガイドの依頼は前日までに入ることが多く、当日来訪の上で出発したのは1件のみでした。旧北炭清水沢火力発電所（清水沢アートパワープラント）・清水沢ズリ山はガイドなしでの個別見学体制がすでに整っていますが、旧発電所にマイクロバス以上の団体で入場する際は、所有企業の東亜建材工業との申し合わせで有料（1バス5400円）にて誘導を行うことにしています。

個人向けのガイドは、オーダーに合わせてきめ細かに対応が可能です。ガイド料金は、お一人1時間1,080円～で設定しており、ホームページなどで明示しています。

夕張市内にとどまらず、近隣の産炭地域と合わせて見学したいという要望もあります。特に三笠市の住友奔別炭鉱立坑は、空知産炭地域を代表する炭鉱遺産であり、見学希望が多くあります。

外国人からのガイド依頼は4件あり、いずれも個人訪問の写真家・芸術家で、英語にて対応しました。今後外国人団体観光客の来訪も考えられますが、生活地の静けさを破壊しない、節度ある観光を求める合意形成が必要だと考えます。

昨年度からゆうばり観光ガイド養成講座に関わり、観光ガイドだけではなく、長期的なまちづくり人材の育成を構想していましたが、運営体制の変化により理想とする人材育成が困難となり、撤退しました。

ガイドの質向上として、全国の石炭産業関係博物館等の研修会への参加や、ゆうばり観光ガイド養成講座第二期へ受講生として参加するなど行いました。

滞在拠点利用の受け入れ・活動サポート

コミュニティゲートには、文化芸術活動をはじめ、夕張で「何か」をしたい人に向けた中短期滞在活動拠点としての機能を持たせています。仮オープン以降、合計13件の利用があり、使用料収入は20万円弱でした。このうち4件は、おおむね1週間以上の利用・活動の広報利用と本人等による情報発信・成果発表・アンケート回答を条件に、モニターとして一組2万円の謝金を支払いました。初めて長期で滞在する利用者には、2時間の地域レクチャー（ズリ山に登って地域事情の説明、生活に必要な施設の説明など）を有料で受けることを条件としています。

活動にあたって、利用者の意向を聞きながら、必要なコーディネート・サポートを行っています。利用者は、その活動を通じて、思いもよらない人々との繋がりを深めてくれました。そのなかで、法人の会員の皆様もホストとして滞在者に関わったり、活動に参加、協力しようという雰囲気ができつつあり、滞在者の活動もスムーズに進むようになってきていることに感謝申し上げます。「地域の外と中の人の接点としてのコミュニティゲート」は、弊法人が用意するのではなく、ここに関わる人々が形成していくものだと実感しました。

運営・管理の仕組み構築にあたっては、先進事例の「さっぽろ天神山アートスタジオ」を参考にし、ディレクターの小田井真美氏にアドバイザーを依頼しました。

施設の利用に関しては、利用規約を定めました。市との協議により、全部の部屋で利用目的を問わず同じ利用料金の料金体系にしており、利用料金は1日の場合、一室（10:00～翌日10:00）4,000円＋税としています。一人あたりの料金ではなく一室（6名程度まで）料金なので、グループには大変リーズナブルとなっています。また、天神山アートスタジオを参考に、長期で利用するほど一日あたりの利用料金が少なくなっていく逆累進的加算制としました。この計算方法が大変わかりづらいという声も聞かれたので、今後は一日あたりの利用料金表もわかりやすく表示するほか、ターゲット別の資料も充実させたいと考えています。

また、ひとりで利用する場合のみ、半室利用を条件に料金を半額に設定しています。3月の宮文祭は初めての有料イベントで、売上が1点1,000円以下の場合、1割の手数料を徴収しました。

コミュニティゲート拠点利用一覧

	滞在利用者	人数	期間	利用室	目的	収入	備考
1	シニアフォト キャラバン	2	7月中旬 15日間	3号室	高齢者のポートレート写真 撮影・ライフストーリーの 聞き取りを通じた、交流・ 地域貢献	42,000円	モニター 対象
2	松本力	1	8月中旬 3日間	3号室	一般社団法人らぶらすとの 共同事業、「からころ」ア ニメーションワークショップ、プロジェクト準備、か らころ看板制作など	12,960円	モニター 対象
3	(個人)	13	9月中旬 1日間	3号室	道外から来る親戚の歓迎パ ーティー	(一般会員 特典)	
4	菊池史子	1	10月～11月 上旬 35日間	3号室1 階	校歌のプロジェクト	43,092円	モニター 対象(2号 室・1号室 でパーテ ィー各1)
5	(法人)	12	10月下旬半日	1号室1 階	講演会	2,800円	
6	(個人)	1	10月下旬 2日間	3号室2 階	写真リサーチ下見	4,320円	
7	(個人)	1	10月下旬 1日間	3号室2 階	見学	2,160円	
8	清水沢プロジ ェクト	10	12月下旬半日	2号室1 階	パーティー	0円	
9	(個人)	7	1月下旬 1日間	3号室	撮影	4,320円	札幌国際 芸術祭関 係
10	(個人)	1	2月下旬～3月 上旬 12日間	2号室	ビジネス	33,480円	
11	(個人)	1	3月上旬1日間	3号室	視察	4,320円	
12	夕張高校美術 部	3	3月中旬半日	1号室	部活	0円	
13	宮文祭実行委 員会	1	3月中旬 11日間	3号室・ 1号室	写真展・トークイベント・ 鑑賞会・学習会・ゲーム・ 音楽・工作・喫茶(臨時営 業許可)	44,280円	モニター 対象・有 料イベン ト

喫茶

地元の方々から寄せられた意見の一つに、お茶を飲み歓談することができたら嬉しいという意見があり、また、コワーキングスペース利用者の滞在時間増大、滞在施設利用者に対するアメニティとしても、喫茶の提供が必要だと考えました。

当施設の開館は週末のみで労力をかけることもできないため、喫茶の提供スタイルとしては利用者自身でコーヒーマシンを操作してもらい、代金は投げ銭していただいています。

物販

施設の自立運営にむけ収益源を増やすため、オリジナルグッズ（ポストカード）を制作し、コミュニティゲートや夕張観光案内センターなどで販売を行いました。また、三菱大夕張鉄道保存会のカレンダーや、「夕張とつながるTシャツ」の委託販売を行いました。

オフィス利用

オフィス利用の問い合わせは多くありましたが、実現に至りませんでした。需要があまりないことも挙げられますが、料金がネックになっていると考えられます。

4. 清水沢エコミュージアムの整備

該当項目

- (1) 炭鉱遺産の保存・活用・普及啓蒙・学術教育・調査研究に関する事業
- (2) 地域資源の価値発見、活用による交流人口の増大に関する事業
- (3) 炭鉱遺産・地域資源の価値増大に資する施設等の運営事業
- (4) (1)～(3)各号に関する活動を目的とした来訪者の受け入れ、情報提供、支援に関する事業
- (8) 地域資源を活用したまちづくりに関するコンサルティング・シンクタンク事業

エコミュージアムの柱として、各地域資源を「鉄道」「電気」「炭鉱」の3つのストーリーでグルーピングし、案内の際は、時系列を縦軸、ストーリーを横軸としてわかりやすく伝えるように工夫をしています。特に北炭清水沢炭鉱の石炭産出ルート「石炭の道」と名付け、約2時間のコースとして設定しています。ガイドの際は時間が限られているので、「石炭の道」ルートを実際に歩くことはほとんどありませんが、毎月開催している「清水沢まちあるき」の定番コースとなっている。ズリ山に登ると、石炭の道ルートを一望して説明することが可能です。

このルートや地域資源の解説は、「清水沢コミュニティゲート」ならびに「清水沢エコミュージアム」の紹介パンフレットとしてまとめ、A4三つ折版で3版1500部制作しました。



作成したのぼり



設置した案内看板

段階にあります。次善策としてGoogle Mapsでルートを示し、スマートフォンからナビゲートできる地図を作成しました（前ページの図）。

またコミュニティゲートや炭鉱遺産、イベント時の目印として、のぼりを二種作成しました。

情報発信・広報・連携

ホームページやフェイスブックページでの情報発信、Google Mapsへの位置情報登録など、インターネット上での活動の発信は、こまめに行いました。地元の宮前町・清栄町さつき町内会には、広報と同時配布のニュースレターを3回配布しました。

市内他の観光事業者との情報交換も行いました。特に夕張観光案内センター、道の駅夕張メロドと協議し、観光案内所として情報交換を行うことを確認しました。しかし、観光案内センターの体制変更により、現在話し合いは中断している状態です。

第1期（2016年度）決算

貸借対照表

平成 29年 3月 31日現在

一般社団法人 清水沢プロジェクト

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 2,367,184】	【流動負債】	【 606,500】
現金・預金	2,367,184	未払法人税等	606,500
		負債の部合計	606,500
		純 資 産 の 部	
		【株主資本】	【 1,760,684】
		利益剰余金	1,760,684
		その他利益剰余金	1,760,684
		繰越利益剰余金	1,760,684
		純資産の部合計	1,760,684
資産の部合計	2,367,184	負債純資産の部合計	2,367,184

損 益 計 算 書

自 平成 28年 5月 13日
至 平成 29年 3月 31日

一般社団法人 清水沢プロジェクト

(単位：円)

科 目	金 額	
【売上高】		
補 助 金 収 入	7,375,898	
そ の 他 収 入	530,653	7,906,551
【売上原価】		0
売 上 総 利 益		7,906,551
【販売費及び一般管理費】		5,539,367
営 業 利 益		2,367,184
【営業外収益】		0
【営業外費用】		0
経 常 利 益		2,367,184
【特別利益】		0
【特別損失】		0
税引前当期純利益		2,367,184
法人税住民税事業税		606,500
当 期 純 利 益		1,760,684

販売費及び一般管理費

自 平成 28年 5月 13日
至 平成 29年 3月 31日

一般社団法人 清水沢プロジェクト

(単位：円)

科 目	金 額	
給 料 手 当	1,890,000	
法 定 福 利 費	183,348	
広 告 宣 伝 費	48,789	
旅 費 交 通 費	676,550	
備 品 費	829,430	
室 内 改 修 費	545,109	
保 険 料	25,138	
モ ニ タ ー 費	80,000	
イ ベ ン ト 費	100,365	
謝 金	40,000	
諸 経 費	1,120,638	
販売費・一般管理費		5,539,367